

Oracle® Server X5-4 Linux オペレーティングシステムインストールガイド

ORACLE®

Part No: E64487-01
2015 年 6 月

Part No: E64487-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
Linux オペレーティングシステムのインストールについて	11
サポートされている Linux オペレーティングシステム	12
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux	13
コンソール表示オプションの選択	13
コンソール表示オプション	13
▼ ローカルコンソールを設定する	14
▼ リモートコンソールを設定する	14
ブートメディアオプションの選択	15
ブートメディアオプションの要件	16
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	17
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	17
インストール先オプションの選択	20
インストール先のオプション	20
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	22
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	22
Linux OS のインストールオプション	22
サーバー 1 台構成のインストール方法	23
補助付き Linux OS インストール	23
Linux OS の手動インストール	24
Oracle System Assistant の概要	24
「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク	25
Oracle System Assistant の取得	25
Linux オペレーティングシステムのインストールの準備	27
ブート環境の準備	27
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	28

▼ ブートモードを設定する	30
RAID の構成	33
Linux オペレーティングシステムのインストール	35
Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール	35
▼ Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする	35
単一システムへの Oracle Linux の手動インストール	40
Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスクマップ	40
始める前に	41
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする	41
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.0 OS を手動でインストールする	61
▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする	67
Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク	71
Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール	71
RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスクマップ	72
始める前に	72
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.0 OS を手動でインストールする	73
▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする	76
RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク	80
索引	81

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Linux オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle Server X5-4 を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびシステムユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

このセクションでは、システムの最新のファームウェアおよびソフトウェアの入手方法、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- [7 ページの「Oracle Server X5-4 モデル命名規則」](#)
- [7 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [8 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [8 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [8 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [9 ページの「寄稿者」](#)
- [9 ページの「変更履歴」](#)

Oracle Server X5-4 モデル命名規則

Oracle Server X5-4 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 5 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 4 は、サーバー内のプロセッサソケットの数を意味します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の方法で入手できます。

- Oracle System Assistant: 工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー向けのオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバが含まれており、内蔵 USB フラッシュスティック上にあります。
- My Oracle Support: <https://support.oracle.com> にある Oracle サポートの Web サイトです。
- 物理メディアのリクエスト: My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストします。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com/
Oracle Server X5-4	http://www.oracle.com/goto/X5-4/docs-videos
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle ILOM のバージョンについては、このドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle Hardware Management Pack のバージョンについては、このドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Ray Angelo、Mark McGothigan、Ralph Woodley

寄稿者: Kenny Tung、Johnny Hui、Prfull Singhal、Barry Wright、Cynthia Chin-Lee、David Savard、Tamra,Smith-Wasel、Todd Creamer、William Schweickert

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2015年6月: 初版発行

Linux オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、Oracle Server X5-4 に新しい Linux オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
サポートされる Linux オペレーティングシステムを確認します。	12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux およびこれが使用できる場合について確認します。	13 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux」
コンソール表示オプションとそれらを設定する方法を確認します。	13 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらを設定する方法を確認します。	15 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらを設定する方法を確認します。	20 ページの「インストール先オプションの選択」
OS のインストールオプションを確認します。	22 ページの「Linux OS のインストールオプション」
Oracle System Assistant を確認します。	24 ページの「Oracle System Assistant の概要」

注記 - このドキュメントでは、手動で、または Oracle System Assistant を使用してサポートされている Linux OS をインストールする方法について説明します。プリインストール OS がシステムに付属している場合は、OS の構成方法についてサーバーのインストールガイドを参照してください。

関連情報

- [35 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

サポートされている Linux オペレーティングシステム

Oracle Server X5-4 は次の最小限の Linux オペレーティングシステムをサポートしています。

Linux OS のバージョン	エディション
Oracle	Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 3 Update 5 を備えた Oracle Linux 6.6 および 7.0 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Red Hat 互換カーネルを Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS for x86 (64 ビット) で使用できます。
Red Hat	Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.0 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 3 u5 を Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.0 OS for x86 (64 ビット) にインストールできます。

Linux ハードウェア互換リスト (HCL) には、Linux オペレーティングシステムと互換性があるハードウェアが示されています。Oracle Server X5-4 でサポートされている最新の Linux バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Linux – <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Red Hat Enterprise Linux – <http://www.redhat.com/en/services/support>

注記 - オペレーティングシステムの最新のすべての要件については、最新バージョンの『Oracle Server X5-4 プロダクトノート』を参照してください。さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールすることもできます。<http://www.oracle.com/goto/X5-4/docs-videos> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-4 プロダクトノート』を参照してください。

注記 - Oracle Linux 6.6 OS がインストール済みの場合、そのインストールではサーバーがレガシー BIOS に設定されています。サーバーを UEFI ブートモードでブートするよう選択した場合、インストール済みのイメージにアクセスできなくなります。したがって、UEFI/BIOS ブートモードを UEFI に設定して Oracle Linux 6.6 OS を使用するには、Oracle Linux 6.6 を新しくインストールする必要があります。

関連情報

- [35 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

このリリースのサーバーソフトウェアでは、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の Release 3 がサポートされています。Release 3 は Oracle Linux 6.6 および 7.0 OS にデフォルトでインストールされており、Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.0 OS にインストールできます。Release 3 は 3.8.x メインライン Linux カーネルに基づいており、Release 2 のカーネル以降にメインライン Linux に組み込まれた改良点と新機能が含まれています。

関連情報

- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux: オペレーティングシステムの互換性およびインストール情報の参照先に関する最新情報については、次の『Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 のリリースノート』を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E37670_01/index.html

- [35 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [13 ページの「コンソール表示オプション」](#)
- [14 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [14 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

また、サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接、または端末エミュレータ経由で接続します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - b. Oracle ILOM プロンプトで、次のように入力します。

-> `start /HOST/console`

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースのどちらかを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP)

の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、「[Modifying Network Settings for Oracle ILOM](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Installation Guide](#)』を参照してください。

2. **Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は手順 3 に進みます。**
 - a. **Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。**
 - b. **Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - c. **Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。**
3. **SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。**
 - a. **シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。**
ssh root@hostname と入力します。ここで、hostname はサーバー SP の DNS 名または IP アドレスです。
 - b. **Oracle ILOM にログインします。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - c. **Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。**
-> start /HOST/console

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースの設定要件を示します。

- [16 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [17 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [17 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [16 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [16 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

DVD インストールメディアは、次のどの方法でも使用できます。

- インストールメディア DVD は、サーバー DVD ドライブに挿入できます。
- インストールメディア DVD は、サーバーに接続している外付け DVD ドライブに挿入できます。
- インストールメディアは、USB フラッシュドライブにコピーして、サーバーの外付け USB ポートか内蔵 USB ポートのいずれかに挿入できます。

リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワークを介してインストールをブートできます。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、PreBoot eXecution Environment (PXE) を使ってネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、および着脱可能なリモートの USB フラッシュドライブインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD ISO イメージ

- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。
- PXE ネットワークブートとして使用できるようにした DVD/ISO イメージ。サポートされている Linux オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、次の各セクションを参照してください。
 - [67 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)
 - [76 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Linux OS インストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Linux OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーの前面および背面に配置されている外部 USB ポートのいずれかに、Linux OS のインストールメディアを含む外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを挿入します。

注記 - サーバーの外部 USB ポートの位置については、「[Oracle X5-4 Server Feature Overview](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Installation Guide](#)』を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。

1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。

- **DVD-ROM の場合は**、リモートワークステーション上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
- **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できること、または ISO イメージがサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

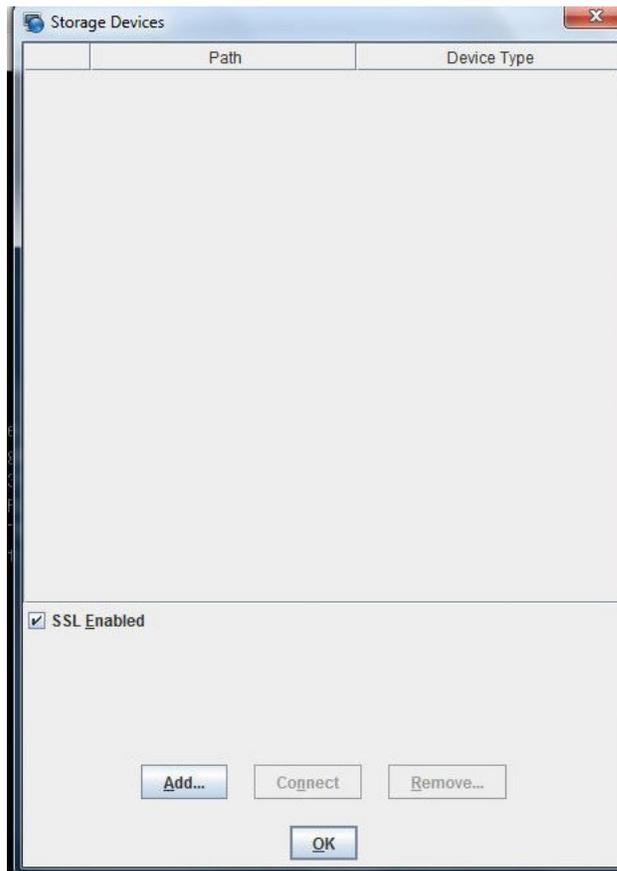
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

詳細は、13 ページの「[コンソール表示オプションの選択](#)」に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。

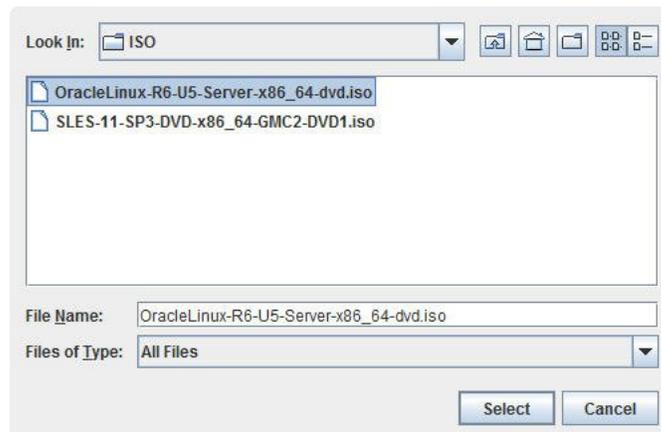
3. リモートコンソールで、次の手順を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックし、KVMS ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」デバイスで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。
- e. ISO イメージを選択して、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- 20 ページの「インストール先のオプション」
- 22 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 22 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) およびオプションの NVMe ドライブ (サーバーのフロントパネル

に配置されている)を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル (FC) PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

注記 - NVMe ドライブは、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムではサポートされていません。NVMe ドライブは、Oracle Linux オペレーティングシステムを実行しているサーバー上でサポートされますが、NVMe ドライブはオペレーティングシステムのブートをサポートしないため、インストール先として使用しないでください。

重要: USB 組み込み型 Oracle System Assistant 内蔵フラッシュドライブは、ブートまたはストレージドライブとして使用しない

サーバーは、組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされているすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み書き可能な単一パーティションの SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストには `Oracle_SSM` と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないでください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを復元する手順については、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ターゲットドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けおよび電源投入については、「[Servicing Storage Drives \(CRU\)](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Service Manual](#)』を参照してください。

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. サーバーにファイバチャネル PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。

ファイバチャネル PCIe HBA オプションの取り付け方法については、「[Servicing PCIe Cards](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Service Manual](#)』を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。**

手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

Linux OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントで扱う範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これらの 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバー上に OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none">■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、

オプション	説明
	Oracle System Assistant にアクセスするか、OS の手動インストールを実行します。
	注記 - Oracle は、単一サーバーでの OS のインストールには Oracle System Assistant を使用することをお勧めします。

単一サーバーに OS をインストールする方法と Oracle System Assistant の詳細については、次を参照してください。

- [23 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」](#)
- [24 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)

サーバー 1 台構成のインストール方法

OS インストールメディアを用意する方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および OS 配布メディア。詳細については、 23 ページの「補助付き Linux OS インストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール – Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーション、リダイレクトされた DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および OS 配布メディア。詳細については、 23 ページの「補助付き Linux OS インストール」 を参照してください。
DVD ドライブを使用したローカル OS インストール – サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードおよびマウス、USB DVD ドライブ、および OS 配布メディア。詳細については、 24 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。
DVD ドライブまたは DVD の ISO イメージを使用したリモート OS インストール – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用します。	リモートシステムとブラウザ、接続された物理 DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、OS 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細については、 24 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。

補助付き Linux OS インストール

補助付き Linux OS インストールは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。OS

インストールメディアをローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供します。Oracle System Assistant により手順が案内され、必要に応じてドライバが収集およびインストールされます。使用しているサーバーで Oracle System Assistant がサポートされ、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Linux OS の手動インストール

Linux OS の手動インストールの方法では、ローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで Linux OS 配布メディアを提供します。必要なドライバをインストールする必要もあります。サーバー用のドライバは、サーバー内蔵の Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) に用意されており、My Oracle Support の Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして、または ISO イメージファイルとして入手することもできます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一サーバーシステム管理ツールです。Oracle System Assistant は、Oracle の単一システム管理製品、Oracle System Assistant 自体の機能、および選り抜きの関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に構成および管理できるようにするツール群を提供します。

Oracle System Assistant には、ローカルコンソール接続を使用してローカルからアクセスすることも、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用してリモートからアクセスすることもできます。

サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (物理的にサーバーの近くに居る間に) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に構成できます。サーバーが動作すると、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle System Assistant アプリケーション
- Oracle Hardware Management Pack
- 構成と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle System Assistant のコマンド行環境
- オペレーティングシステム用のソフトウェア、ドライバ、およびツール
- サーバー固有のファームウェア

Oracle System Assistant は、組み込み型ストレージデバイス (USB フラッシュドライブ) としてサーバー内部に装備されています。ドライブは、すべてのコンポーネントのオンライン更新を使用することによりそれぞれ保守される、サーバー固有バージョンの Oracle System Assistant とともに出荷時に構成されています。

詳細は、次のトピックを参照してください。

- 25 ページの「[「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク](#)」
- 25 ページの「[Oracle System Assistant の取得](#)」

詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

「Get Updates」 および 「Install OS」 タスク

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバとほかのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、および該当する場合はエキスパンダ) を更新する場合は、OS をインストールする前に「Get Updates」タスクを実行するようにしてください。「Get Updates」タスクを実行することで、OS ドライバの最新バージョンが確実に使用されるようになります。

Oracle System Assistant の OS インストールタスクを実行すると、サポートされている OS をガイドに従ってインストールできます。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバを取得します。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムに使用できるわけではありません。

詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

Oracle System Assistant の取得

サーバーは Oracle System Assistant をサポートしているため、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブがすでにサーバーに取り付けられている可能性があります。取り付けられている場合は、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを使用して、最新のソフトウェアリリースに更新できます。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされているが、破壊または上書きされている場合は、My Oracle Support Web サイトから Oracle System Assistant Updater イメージをダウンロードしてください。ダウンロード手順については、「[Getting Server Firmware and Software](#)」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』を参照してください。

サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかを確認する方法、および更新や回復手順を実行する方法については、<http://www.oracle.com/goto/>

[x86AdminDiag/docs](#) にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』

Linux オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバー UEFI の最適なデフォルトを確認および設定します。	27 ページの「ブート環境の準備」
ブートモードを構成します。	30 ページの「ブートモードを設定する」
サーバーで RAID を構成します。	33 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [35 ページの「Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール」](#)
- [40 ページの「単一システムへの Oracle Linux の手動インストール」](#)
- [71 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール」](#)

ブート環境の準備

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が構成されていることを確認するようにしてください。

次のトピックでは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法について具体的に説明しています。

- [28 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [30 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

UEFI は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェアとの間のソフトウェアインタフェースを定義する仕様です。UEFI は、基本入出力システム (BIOS) ファームウェアインタフェースに置き換わることを目的としています。実際には、ほとんどの UEFI ファームウェアイメージが BIOS サービスのレガシーサポートを提供しています。UEFI の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - この手順はオプションです。新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、UEFI ファームウェアはおそらく最適なデフォルトの設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X5-4 サービスマニュアル』で確認できます。

F2 キーを使用して BIOS 設定ユーティリティで行なった変更はすべて、次回に変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定された常時ブートデバイスが有効になります。

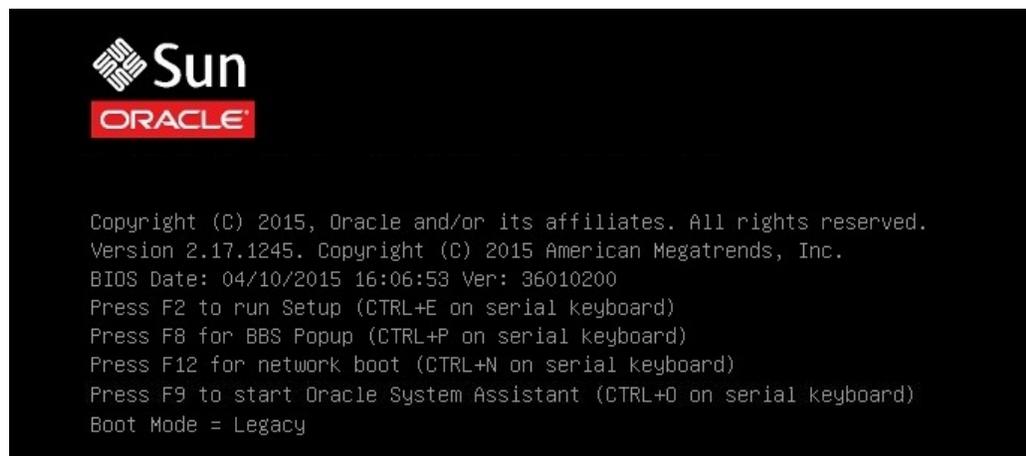
始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。手順については、「[Servicing Storage Drives \(CRU\)](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Service Manual](#)』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**
たとえば、次のいずれかを実行します。

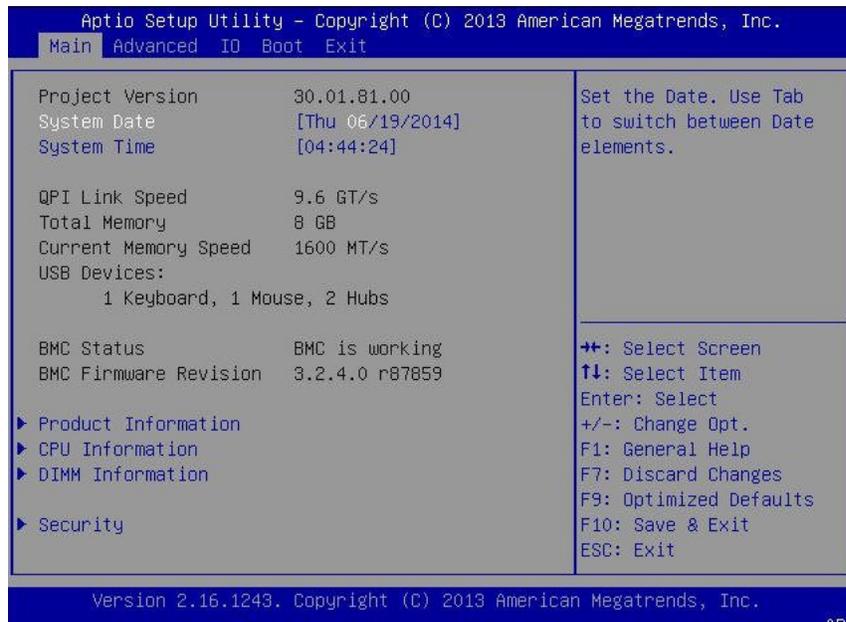
- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** 「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始します。しばらくすると、BIOS 画面が表示されます。



2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**

「[Setup Selected]」およびブートモード (Legacy または UEFI) が BIOS 画面の下部に表示されて、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. **F9** ファンクションキーを押すと、最適なデフォルト設定が自動的にロードされます。メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
4. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter** を押します。
5. 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティ** を終了するには、**F10** キーを押します。または、「Exit」メニューから「Save and Exit」を選択できます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーの UEFI ファームウェアでは、Legacy BIOS と UEFI の両方のブートモードがサポートされます。レガシー BIOS ブートモードはデフォルトで有効になっています。サポートされるすべての Linux オペレーティングシステムがレガシー BIOS と UEFI の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS と UEFI のいずれかに設定できます。

注記 - オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI ブートモードに、またはその逆に切り替えることにした場合、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーでは、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI で「reset /system」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



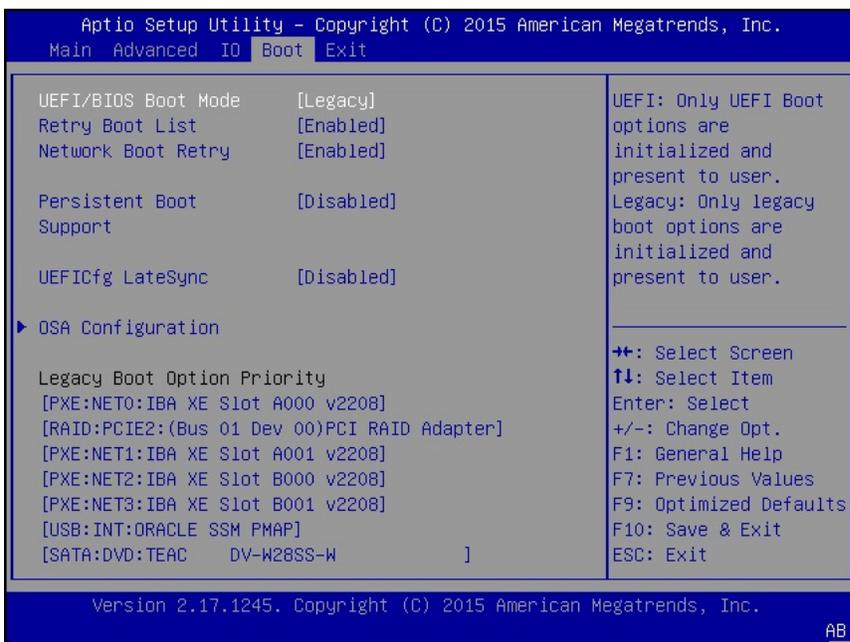
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 ファンクションキーを押せるようにしておきます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. **BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。**

「Boot」メニュー画面が表示されます。



注記 - ブート順のリストのオプションは、ストレージドライブ構成と、Persistent Boot Support 機能を有効にしているかどうかによって異なります。Persistent Boot Support についての詳細は、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter を押します。
5. 目的のブートモードを選択し、Enter を押します。
6. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

注記 - オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) を選択する必要があります。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合、Linux OS をインストールする前にサーバで RAID を構成してください。RAID を構成する手順については、「[Configuring Server Drives for OS Installation](#)」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』を参照してください。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバ管理ガイド』

Linux オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Linux および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムとシステム固有のドライバをサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
Oracle System Assistant を使用した Linux オペレーティングシステムのインストール。	35 ページの「Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール」
メディアを使用した Oracle Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	40 ページの「単一システムへの Oracle Linux の手動インストール」
メディアを使用した Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	71 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール」

Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール

Oracle System Assistant アプリケーションの OS のインストールタスクは、サポートされている OS を Oracle Server X5-4 にインストールするための推奨方法です。

- [35 ページの「Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- [27 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストールの準備」](#) の手順を実行します。

- ブートドライブ (OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバー上で RAID を構成する手順については、「[Configuring Server Drives for OS Installation](#)」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』を参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

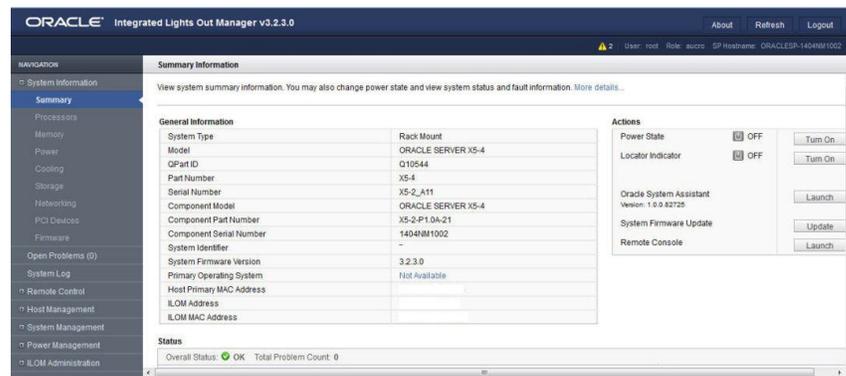
- **配布 DVD の場合は**、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに Linux メディア (DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによってマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、15 ページの「[ブートメディアオプションの選択](#)」を参照してください。

2. Oracle System Assistant を Oracle ILOM Web インタフェースから直接起動する (推奨) には、次の手順を実行します。それ以外の場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

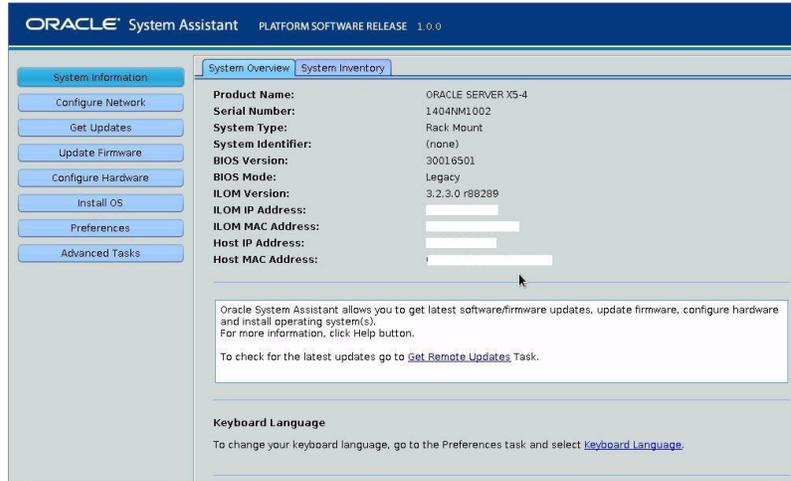
a. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。



b. Oracle ILOM の「Summary Information」ページの「Actions」パネル (下を参照) で Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。



c. **ステップ 4**に進みます。

3. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

a. Oracle ILOM の「Summary Information」ページで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

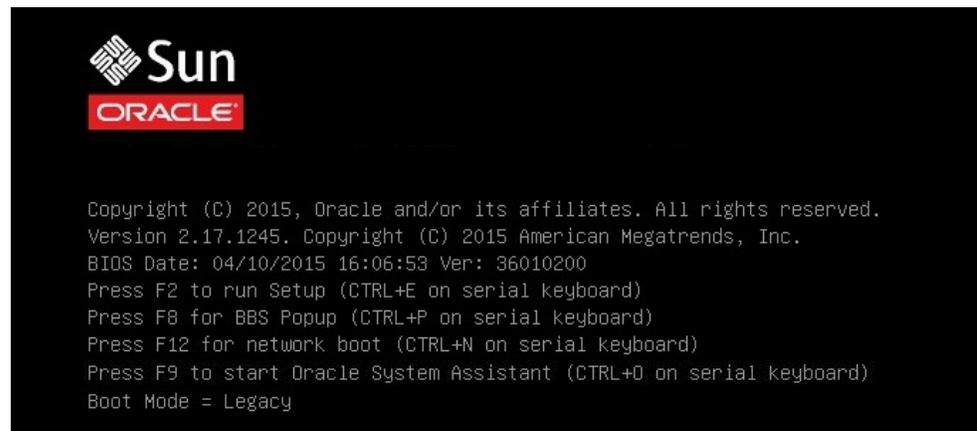
「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- Oracle ILOM CLI で「reset /system」と入力します

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに BIOS 画面が
表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

c. F9 キーを押して Oracle System Assistant を起動します。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

注記 - Oracle Assistant Overview 画面の表示に時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

4. Oracle System Assistant を最新のソフトウェアリリースバージョンに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、最新バージョンの Oracle System Assistant がサーバーに確実にインストールされます。

注記 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。

6. **Linux OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。**
「Operating System Installation」画面が表示されます。
7. **「Supported OS」ドロップダウンリストから、インストールする Linux OS (Oracle Linux または Red Hat Enterprise Linux) を選択します。**
8. 画面の「**Current BIOS mode**」の部分で、**Linux OS のインストールに使用する BIOS ブートモード (UEFI またはレガシー BIOS) を選択します。**
BIOS ブートモードの変更方法の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

9. 画面の「**Select Your Install Media Location**」の部分で、**インストールメディアの場所を選択します。**
これは OS 配布メディアの場所です。オプションは「DVD」と「Network」です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 画面の「**Boot Disk**」の部分で、**Linux OS のインストール先となるデバイスを選択します。**
11. **「Installation Details」をクリックします。**
「Installation Details」ダイアログが表示されます。
12. **「Installation Details」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。**

注記 - 「Installation Details」ダイアログで、「OS」と「Drivers」のオプションは必須であり、選択解除できません。

13. **「Install Operating System」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。**
14. **プロンプトに従ってインストールを完了します。**
サーバーがブートします。
15. **必要に応じて Linux オペレーティングシステムのインストール後のタスクを実行します。**
インストール後のタスクについては、次のセクションを参照してください。
 - [71 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」](#)
 - [80 ページの「RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」](#)

単一システムへの Oracle Linux の手動インストール

このセクションでは、Oracle Linux 6.6 for x86 (64 ビット) オペレーティングシステムのインストール方法について説明します。

- 40 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスマップ」
- 41 ページの「始める前に」
- 41 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする」
- 61 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.0 OS を手動でインストールする」
- 67 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする」
- 71 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」

Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスマップ

次の表は、新規インストールで Oracle Linux OS をインストールするための概略手順の一覧と説明です。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「Installing the Server Into a Rack」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』 ■ 「Cabling the Server」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』 ■ 「Connecting to Oracle ILOM」 in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』
2.	サーバー上でサポートされる Oracle Linux バージョンを確認します。	12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
3.	Oracle Linux インストールメディアを入手します。	インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます。 http://www.oracle.com/us/technologies/linux/index.html
4.	プロダクトノートを確認します。	http://www.oracle.com/goto/X5-4/docs-videos にある『Oracle Server X5-4 プロダクトノート』
5.	インストールの実行に使用するコンソール、Oracle Linux メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 15 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 20 ページの「インストール先オプションの選択」
6.	OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。	27 ページの「ブート環境の準備」
7.	Oracle Linux OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 41 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする」 ■ 61 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.0 OS を手動でインストールする」

手順	説明	リンク
		<ul style="list-style-type: none"> 67 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする」
8.	インストール後のタスクを実行します。	71 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」

関連情報

- 27 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストールの準備」

始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブートドライブ (OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバー上で RAID を構成する手順については、「[Configuring Server Drives for OS Installation](#)」 in 『[Oracle Server X5-4 Installation Guide](#)』を参照してください。
- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。ブートモードを設定する方法の手順については、[30 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェア設定が適切に指定されていることを確認します。UEFI ファームウェア設定を確認し、必要に応じて設定する方法の手順については、[27 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されています。このオプションの詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール先オプションが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[20 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする

この手順では、Oracle Linux オペレーティングシステムをローカルまたはリモートメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれか

のソースから Oracle Linux のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.6 の DVD セット (内蔵または外付け DVD)
- Oracle Linux 6.6 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアを起動している場合は、[67 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)で手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートできることを確認します。

- **配布 DVD の場合**、ローカルまたはリモート DVD-ROM ドライブに、Oracle Linux 6.6 配布メディアブートディスク (DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Oracle Linux 6.6 ISO イメージが利用できること、および ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソール プラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

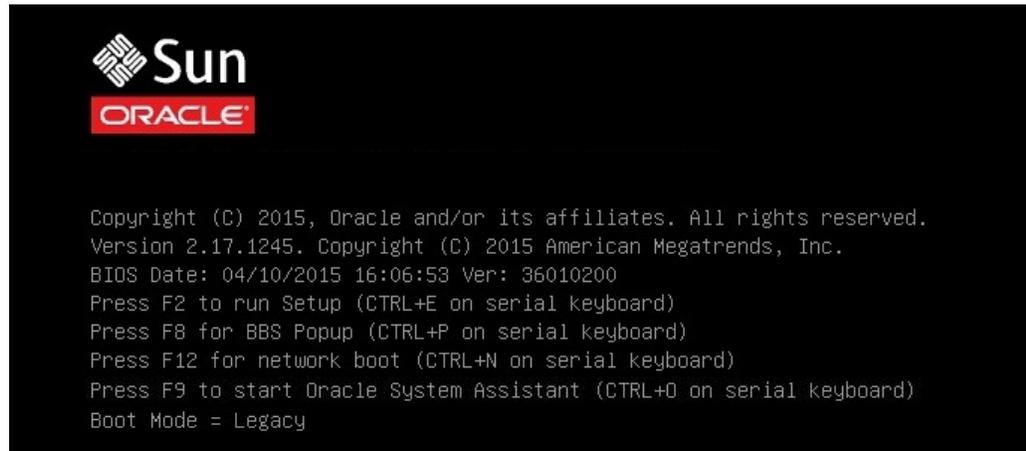
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** 「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

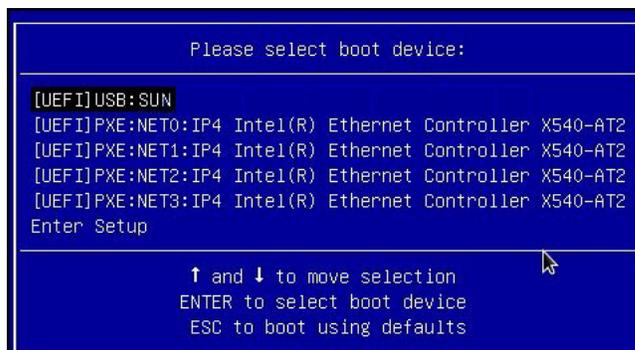
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用するを選択した場合は、レガシー BIOS 画面で USB: SUN を選択します。

- UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、UEFI 画面で [UEFI]USB:SUN を選択します。
5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。
- レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
 - UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。
- レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、デフォルトを受け入れて Enter キーを押します。
 - UEFI ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

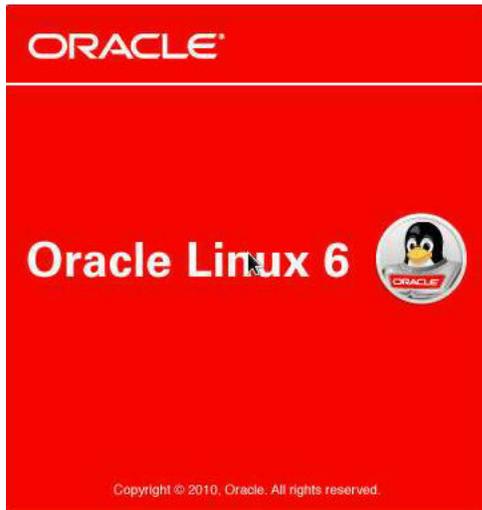
「Disc Found」画面が表示されます。



7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることをお勧めします。それ以外の場合は「skip」を選択して Enter を押します。

注記 - 以前このディスクを使用してインストールを実行したことがある場合、「Skip」を選択します。それ以外の場合は「OK」を選択してディスクをテストします。

Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面が表示されます。



8. **Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面の最下部にスクロールし、「Next」をクリックします。**
「What language would you like to use during the installation process?」画面が表示されます。
9. **適切な言語を選択し、「Next」をクリックします。**
「このシステム用の適切なキーボードを選択します。」画面が表示されます。
10. **適切なキーボード構成を選択し、「次」をクリックします。**
「どちらのタイプのストレージデバイスにインストールしますか?」画面が表示されます。

What type of devices will your installation involve?

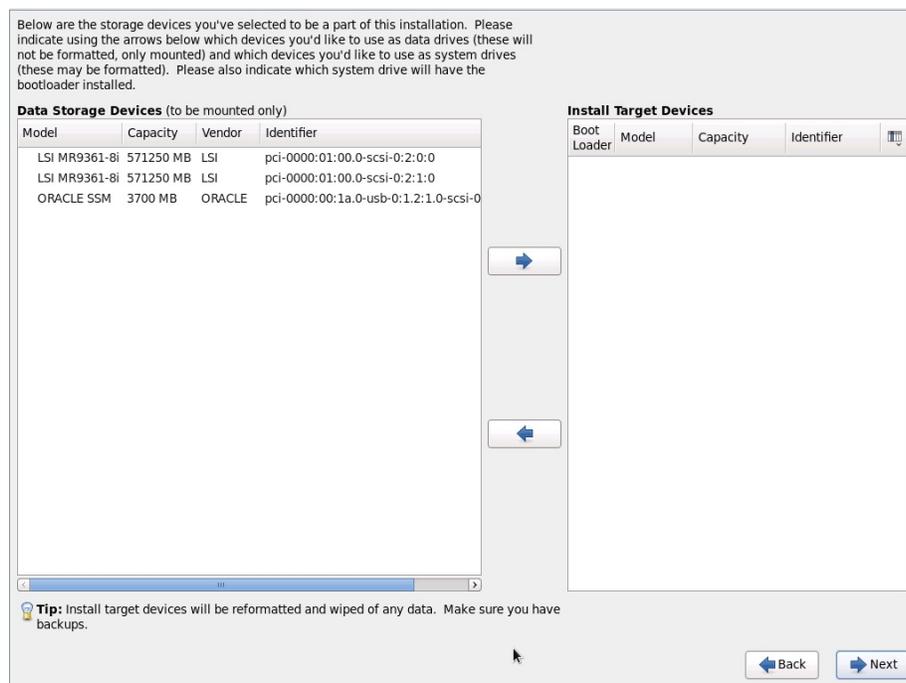
Basic Storage Devices
 Installs or upgrades to typical types of storage devices. If you're not sure which option is right for you, this is probably it.

Specialized Storage Devices
 Installs or upgrades to enterprise devices such as Storage Area Networks (SANs). This option will allow you to add FCoE / iSCSI / zFCP disks and to filter out devices the installer should ignore.

- 上記の画面で、「エンタープライズストレージデバイス」を選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」を選択します。

注記 - 「エンタープライズストレージデバイス」を選択すると、次の画面で Oracle SSM の選択を解除できます。これにより、この手動インストールの残りの作業が実行しやすくなります。

「オペレーティングシステムをインストールするドライブを選択してください」画面が表示されます。

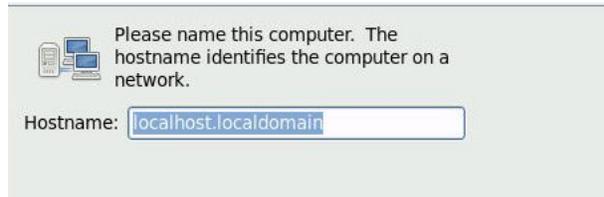


- オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブを選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」をクリックします。



注意 - Oracle SSM ドライブをインストール先に選択しないでください。このドライブは Oracle System Assistant に予約されており、ブートドライブあるいはストレージドライブとして絶対に使用しないでください。Oracle SSM フラッシュドライブの詳細については、20 ページの「インストール先のオプション」を参照してください。

「このコンピューターのホスト名を指定してください」画面が表示されます。



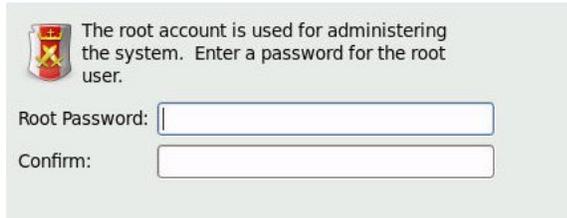
13. ホスト名を入力し、「次」をクリックします。
タイムゾーン選択の画面が表示されます。



14. 適切な地域および都市を選択し、「次」をクリックします。

注記 - NTP サービスが必要な場合、オペレーティングシステムのインストール後にセットアップできます。

「root パスワード」画面が表示されます。



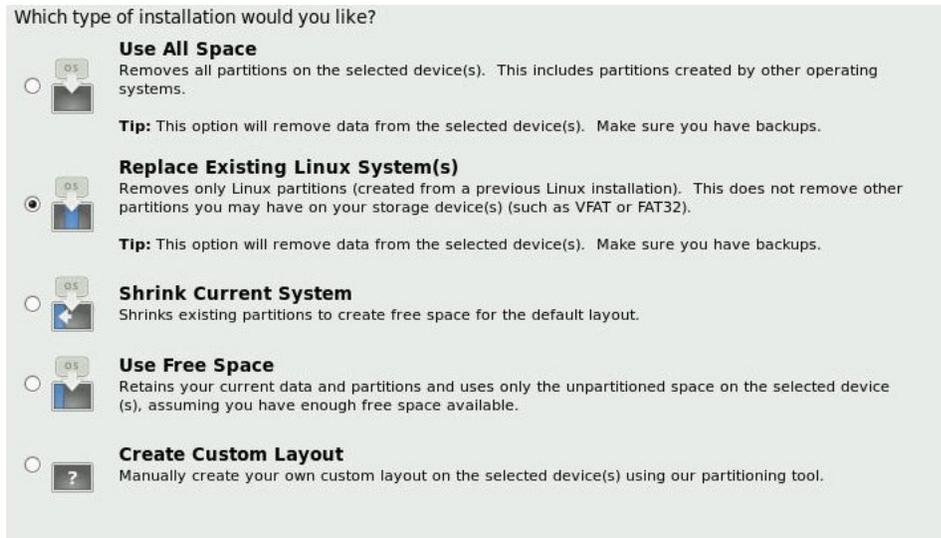
The root account is used for administering the system. Enter a password for the root user.

Root Password:

Confirm:

15. root パスワードを入力し、「次」をクリックします。

「What type of installation would you like?」画面が表示されます。



Which type of installation would you like?

 **Use All Space**
Removes all partitions on the selected device(s). This includes partitions created by other operating systems.
Tip: This option will remove data from the selected device(s). Make sure you have backups.

 **Replace Existing Linux System(s)**
Removes only Linux partitions (created from a previous Linux installation). This does not remove other partitions you may have on your storage device(s) (such as VFAT or FAT32).
Tip: This option will remove data from the selected device(s). Make sure you have backups.

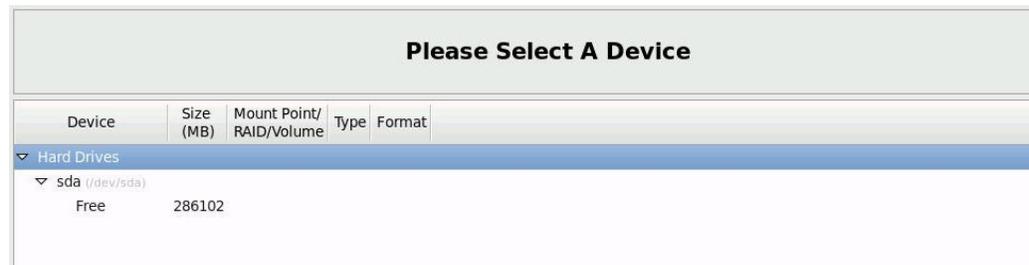
 **Shrink Current System**
Shrinks existing partitions to create free space for the default layout.

 **Use Free Space**
Retains your current data and partitions and uses only the unpartitioned space on the selected device(s), assuming you have enough free space available.

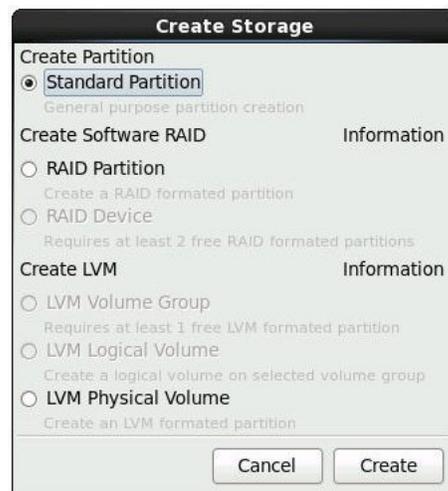
 **Create Custom Layout**
Manually create your own custom layout on the selected device(s) using our partitioning tool.

16. 前述の画面で適切なオプションを選択し、「Next」をクリックします。

たとえば、オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブが空で、「Create Custom Layout」を選択した場合、「Please Select a Device」画面が表示されます。

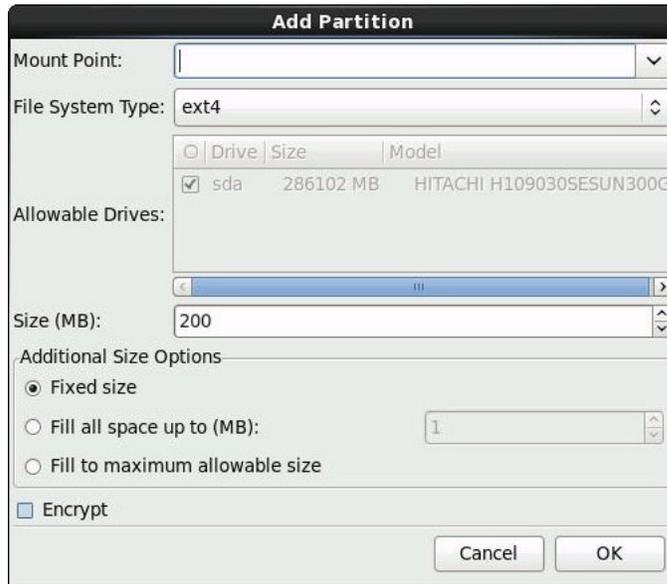


17. パーティションを作成するには、次を行います。
 - a. 画面の最下部にスクロールし、「作成」をクリックします。
「ストレージの作成」ダイアログが表示されます。



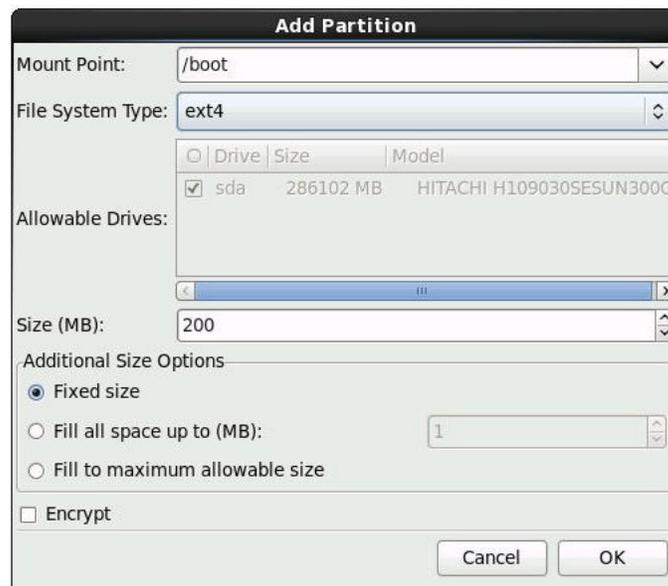
- b. 「標準のパーティション」を選択し、「作成」をクリックします。

「パーティションの追加」ダイアログボックスが表示されます。



- c. ダイアログで、「マウントポイント」を `/boot` に設定し、「ファイルシステムタイプ」を `ext4` のままにし、「サイズ (MB)」を `200` に設定します。

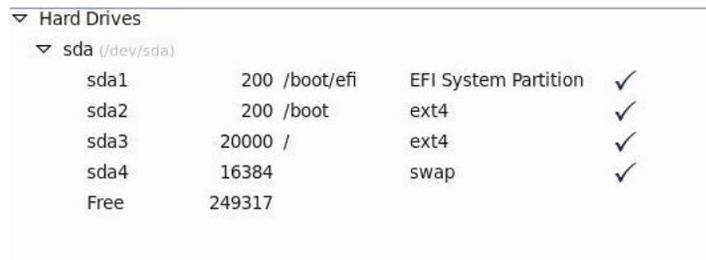
更新された「パーティションの追加」ダイアログを次に示します。



- d. 「OK」をクリックします。
パーティションが作成されます。
- e. 上記の手順 a から手順 d までを繰り返し、次の追加パーティションを作成します。

マウントポイント	ファイルシステムタイプ	サイズ (MB)
/boot/efi 注記 - このパーティションは UEFI ブートモードを選択した場合にのみ作成できます。レガシー BIOS ブートモードではサポートされません。	EFI システムパーティション	200
/	ext4	20000
なし	スワップ	16384

更新されたパーティション画面が表示されます。



Hard Drives				
▼ sda (/dev/sda)				
sda1	200	/boot/efi	EFI System Partition	✓
sda2	200	/boot	ext4	✓
sda3	20000	/	ext4	✓
sda4	16384		swap	✓
Free	249317			

18. 「次」をクリックしてパーティションを適用します。

次のダイアログが表示されます。



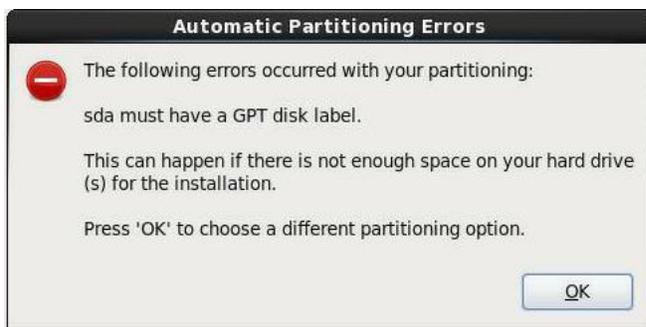
19. 「write changes to disk」をクリックします。

ディスクパーティションエラーがない場合は、ブートローダーのインストール画面が表示され、[ステップ 21](#)に進みます。ディスクパーティションエラーがある場合は、[ステップ 20](#)に進みます。



20. インストール先のディスクにデータ形式の問題がある場合は、「Automatic Partitioning Errors」画面が表示されます。

注記 - オペレーティングシステムを UEFI ブートモードでインストールしている場合、GUID パーティションテーブル (GPT) フォーマット済みディスクが必要なため、次の画面が表示されます。レガシー BIOS ブートモードでインストールしているときにディスクフォーマットのエラーが発生した場合、マスターブートレコード (MBR) フォーマット済みディスクが必要なことを示す類似の画面が表示されます。



上の画面が表示された場合は、Oracle Linux をインストールしようとしているディスクが間違ってフォーマットされており、このディスクを再フォーマットする必要があります。

注記 - このエラーは、以前レガシー BIOS フォーマットでデータを保存するのに使用していたストレージドライブに、UEFI ブートモード OS インストールを実行しようとした場合、またはその逆の場合に発生します。UEFI は GPT フォーマットを使用しますが、レガシー BIOS はストレージドライブを MBR フォーマットでフォーマットします。サーバーの出荷時に装備されていたストレージドライブは新しいものなので、フォーマットされていません。フォーマットされていないディスクにインストールする場合には、このエラーは表示されません。

インストールを中止せずにディスクを回復して再フォーマットするには、インストール画面でキーボードの「戻る」ボタンを数回クリックし、[ステップ 7](#) に示す最初の Oracle Linux スプラッシュ画面に戻って、これらの手順を実行します。

- a. 復旧シェルを開始するには、**Ctrl+Alt+F2** と入力します。
シェルが表示されます。

- b. このインストールの必要に応じて **GPT 形式** または **MBR 形式** でディスクを再フォーマットするには、次の画面に示すようにシェルコマンドを入力します。

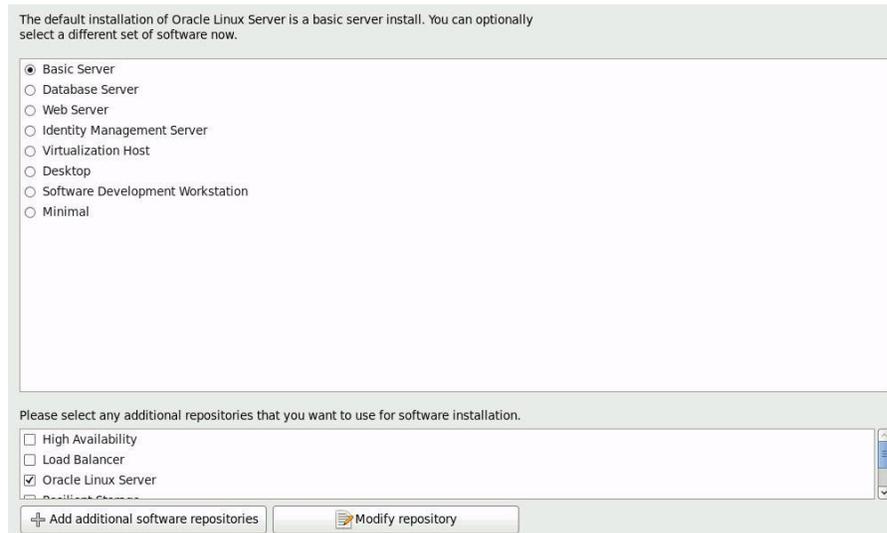
```
anaconda root@localhost /]# parted /dev/sda
GNU Parted 2.1
Using /dev/sda
Welcome to GNU Parted! Type ???help' to view a list of commands.
(parted) p
Model: HITACHI H106030SDSUN300G (scsi)
Disk /dev/sda: 300GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: msdos (or gpt for Legacy BIOS Boot Mode)
Number  Start  End      Size    Type    File system  Flags
 1       1049kB  21.5GB  21.5GB  primary ext2
(parted) mklabel
New disk label type? gpt (or msdos for Legacy BIOS Boot Mode)
Warning: The existing disk label on /dev/sda will be destroyed and all data will be
lost.
Do you want to continue?
Yes/No? yes
(parted) p
Model: HITACHI H106030SDSUN300G (scsi)
Disk /dev/sda: 300GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: gpt
Number  Start  End      Size    File system  Name  Flags
(parted) g
Information: You may need to update /etc/fstab.
anaconda root@localhost /]#
```

- c. **Ctrl+Alt+F6** と入力して、グラフィカルインストール画面に戻り、**Oracle Linux** スプラッシュ画面の時点からインストールを続行します (**ステップ 7** に移動します)。

注記 - ほとんどの場合、このインストールで入力された値は保存されているため、値を再入力する必要はありません。

21. ブートローダーのインストール画面で、**/dev/sda1** へのブートローダーのインストールを選択し、「次」を選択します。

「インストールするサーバーソフトウェアの選択」画面が表示されます。



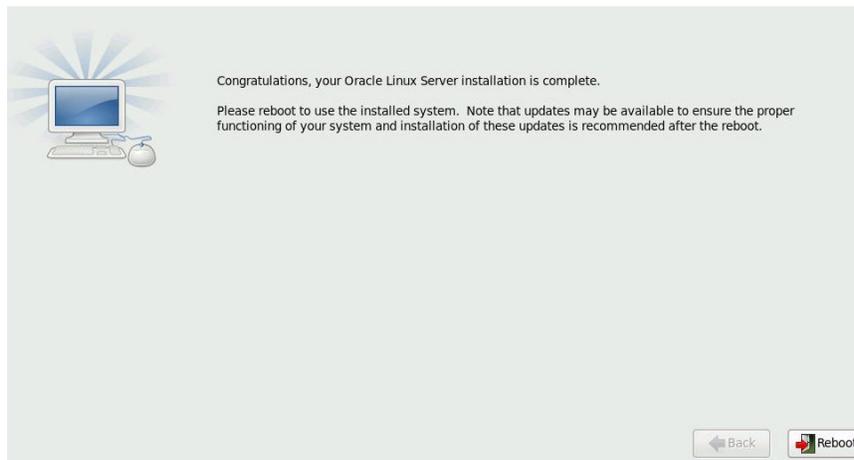
「基本サーバー」がデフォルトのサーバーソフトウェアのインストールですが、別のソフトウェアのセットをオプションで選択することもできます。さらに、この画面の最下部で「今すぐカスタマイズ」を選択して、選択されたソフトウェアのカスタムインストールを行うこともできます。

22. このサンプルインストールを行うために、デフォルトの「基本サーバー」を指定して、「次」をクリックします。

「インストール処理の開始」画面が表示されます。

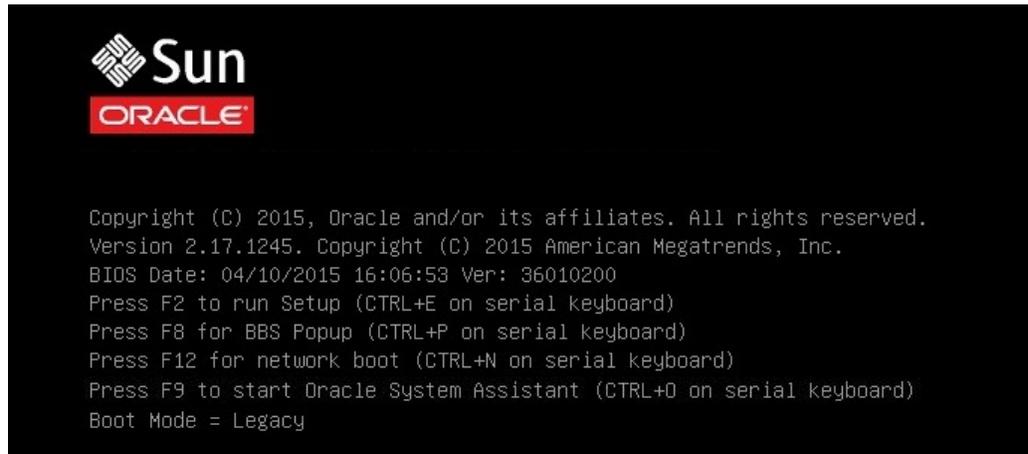


23. Oracle Linux OS のインストールが完了するまで待ちます。
インストールが完了すると、次の画面が表示されます。



24. Oracle Linux インストールをリブートするには、「リブート」をクリックします。

サーバーがリブートし、BIOS 画面が表示されます。

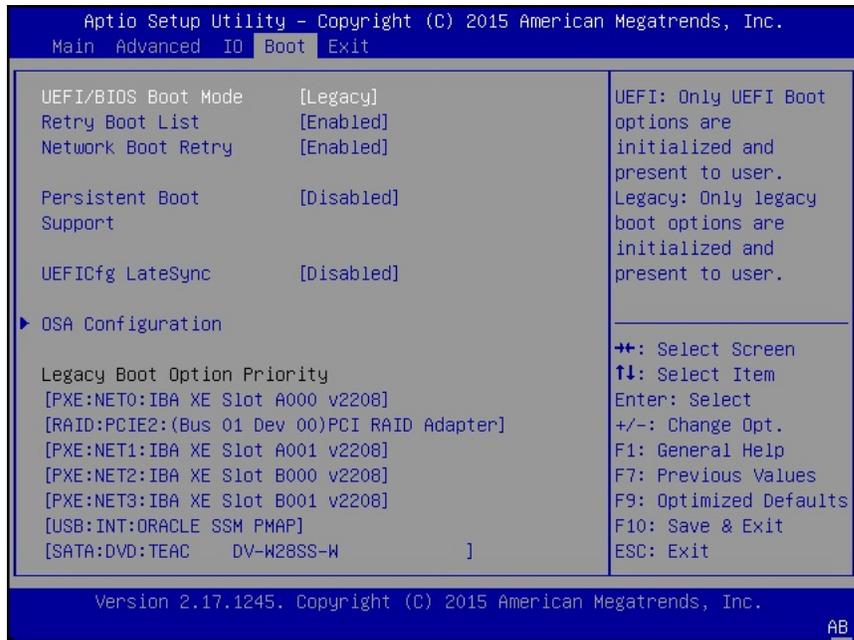


25. **BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。**

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 26](#)に進みます。
 - UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 27](#)に進みます。
26. **レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行して、[ステップ 28](#)に進みます。**

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある [USB:SUN] を選択し、Enter を押します。



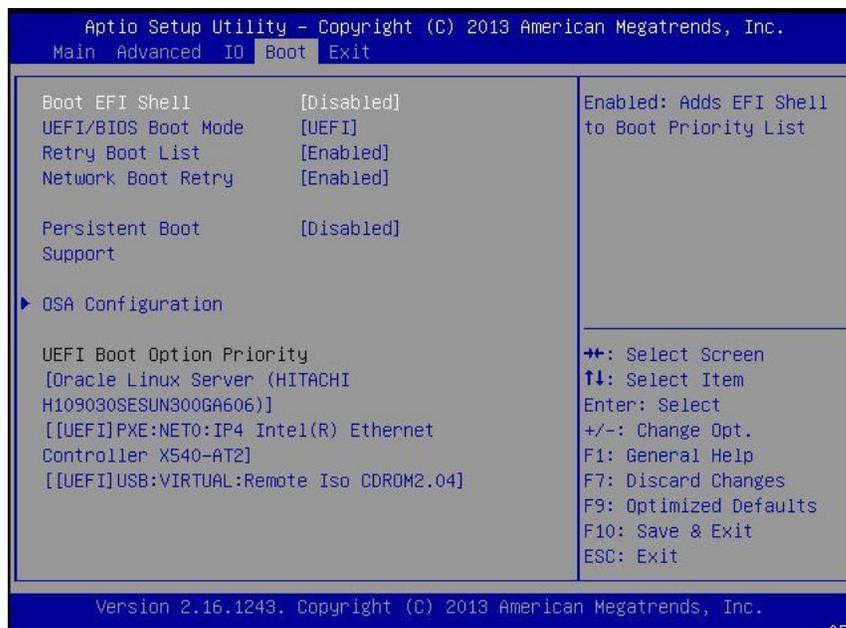
注記 - インストール時に表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. [SAS:PCIE4:E01S06-43BB92B5 HITACHI H109030SESUN30] を選択して、Enter を押します。
[SAS:PCIE4:E01S06-43BB92B5 HITACHI H109030SESUN30] がいちばん上の位置に移動します。
- c. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了してステップ 28 に進みます。

27. UEFI ブートモードで OS をインストールした場合、次の手順を実行します。

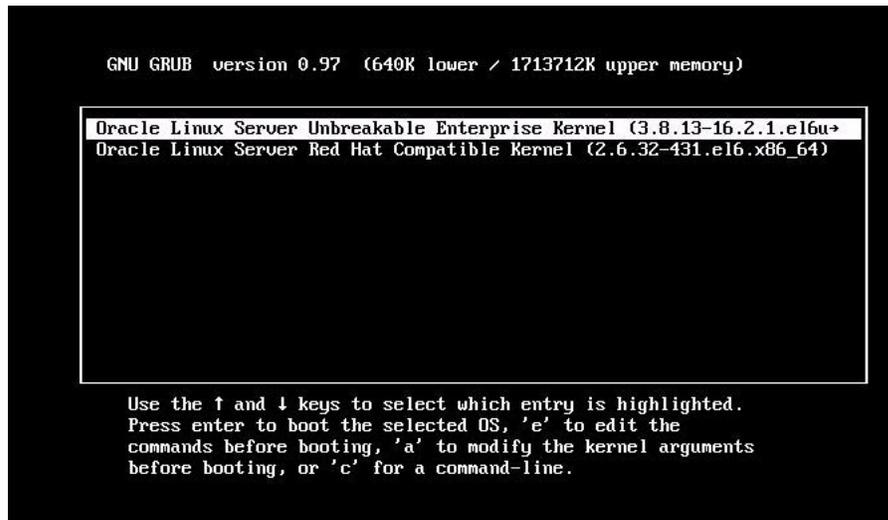
- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティー画面で、[Oracle Linux Server (HITACHI H109030SESUN300GA606)] が「UEFI Boot Option Priority」フィールドの下の最初のオプションとして一覧表示されていることを確認します。



注記 - インストール時に表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

- b. F10 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーを終了します。
28. リポートが実行する間、お待ちください。
次のカーネル画面が表示されます。
- ```
Press any key to enter the menu
Booting Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-16.2.1.e16uek.x86_64) in
2 seconds...
```
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux はデフォルトのカーネルです。
29. デフォルトのカーネルを変更しない場合は、**ステップ 31**に進みます。それ以外の場合は、**ステップ 30**に進みます。

30. (オプション) Oracle Linux 6.6 をインストールしているときに、Red Hat 互換カーネルに切り替える場合は、次を実行します。
  - a. いずれかの文字キーを押します。  
GNU GRUB 画面が表示されます。



- b. Red Hat 互換カーネルの場合は、2 番目のメニューオプションを選択したあと、Enter キーを押します。
31. Oracle Linux のインストールを完了し、目的の Linux カーネルでサーバーをリポートしたあと、71 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」に進みます。

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.0 OS を手動でインストールする

この手順では、Oracle Linux OS 7.0 をローカルメディアまたはリモートメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux OS 7.0 の DVD セット (内蔵または外付け DVD)
- Oracle Linux OS 7.0 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアを起動している場合は、[67 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)で手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートできることを確認します。

- **配布 DVD の場合**、ローカルまたはリモート DVD-ROM ドライブに、Oracle Linux OS 7.0 配布メディアブートディスク (DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Oracle Linux OS 7.0 ISO イメージが利用できること、および ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

---

**注記** - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

---

**注記** - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

---

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、レガシー BIOS 画面で USB:SUN を選択します。
- UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、UEFI 画面で [UEFI]USB:SUN を選択します。

5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
- UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。

6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。

- レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、デフォルトを受け入れて Enter キーを押します。
- UEFI ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

「Disc Found」画面が表示されます。この画面から、インストールを実行する前にメディアをテストするかどうかを選択できます。

7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることをお勧めします。それ以外の場合は「skip」を選択して Enter を押します。

---

注記 - 以前このディスクを使用してインストールを実行したことがある場合、「Skip」を選択します。それ以外の場合は「OK」を選択してディスクをテストします。

---

Oracle Linux 7.0 のスプラッシュ画面が表示されます。

8. Oracle Linux 7.0 のインストール手順に進みます。インストール手順は、Oracle Linux 7.0 の製品ドキュメントライブラリ ([http://docs.oracle.com/cd/E52668\\_01](http://docs.oracle.com/cd/E52668_01)) に含まれています。

---

**注記** - Oracle Linux 7.0 には、Oracle Linux 6.x と異なる動作や結果を伴う新機能が含まれています。インストールは慎重に進めてください。

---

インストールが完了すると、サーバーがリブートして BIOS 画面が表示されます。

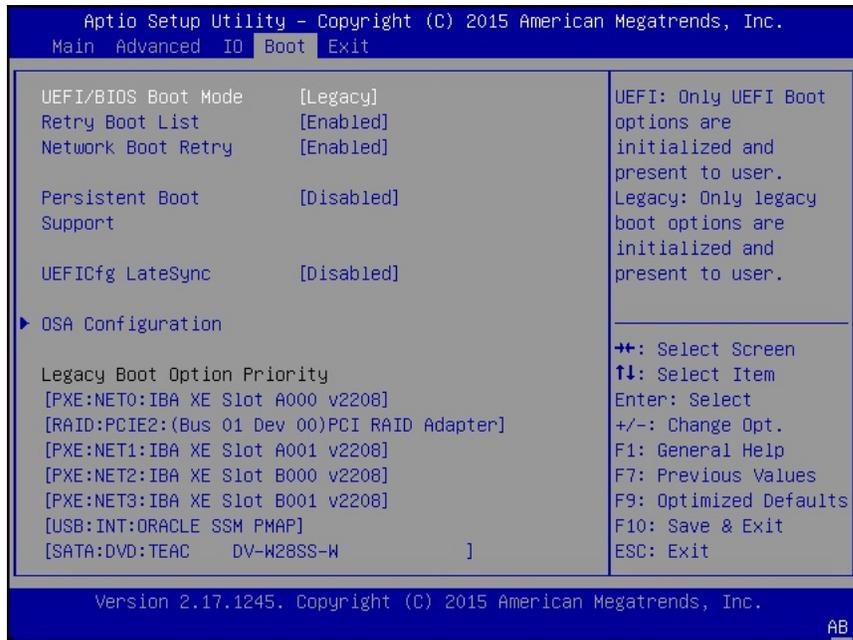
**9. BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。**

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 10](#)に進みます。
- UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 11](#)に進みます。

**10. レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行して、[ステップ 12](#)に進みます。**

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある [USB:SUN] を選択し、Enter を押します。



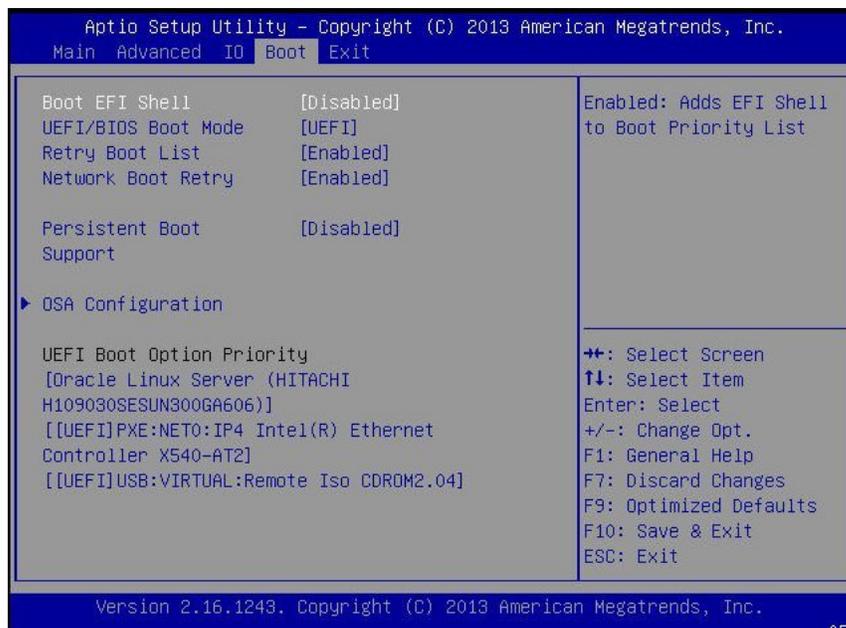
注記 - インストール時に表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. [SAS:PCIE4:E01S06-43BB92B5 HITACHI H109030SESUN30] を選択して、Enter を押します。  
[SAS:PCIE4:E01S06-43BB92B5 HITACHI H109030SESUN30] がいちばん上の位置に移動します。
- c. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了してステップ 12 に進みます。

11. UEFI ブートモードで OS をインストールした場合、次の手順を実行します。

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティー画面で、[Oracle Linux Server (HITACHI H109030SESUN300GA606)] が「UEFI Boot Option Priority」フィールドの下の最初のオプションとして一覧表示されていることを確認します。



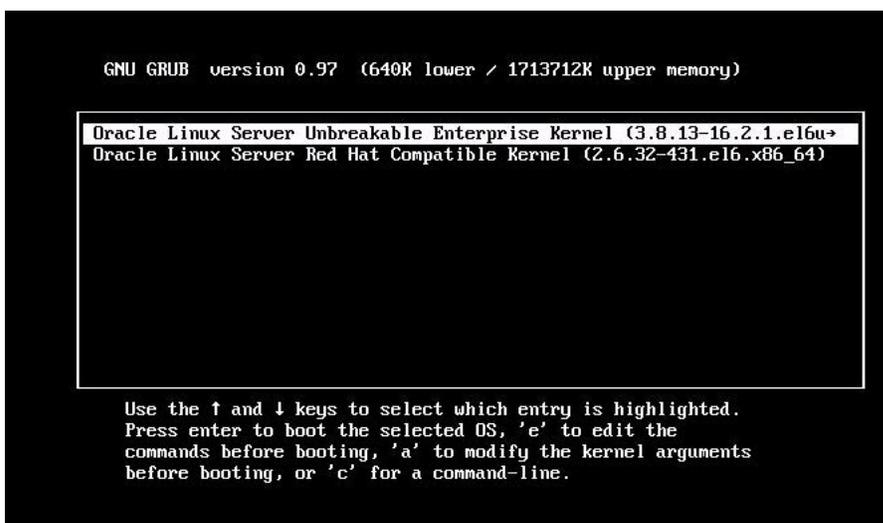
注記 - インストール時に表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

- b. **F10** キーを押して BIOS 設定ユーティリティーを終了します。
12. リポートが続行する間、お待ちください。  
次のカーネル画面が表示されます。  

```
Press any key to enter the menu
Booting Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-16.2.1.e16uek.x86_64) in
2 seconds...
```

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux はデフォルトのカーネルです。
  13. デフォルトのカーネルを変更しない場合は、**ステップ 15** に進みます。それ以外の場合は、**ステップ 14** に進みます。

14. (オプション) Oracle Linux 7.0 をインストールしているときに、Red Hat 互換カーネルに切り替える場合は、次を実行します。
  - a. いずれかの文字キーを押します。  
GNU GRUB 画面が表示されます。



- b. Red Hat 互換カーネルの場合は、2 番目のメニューオプションを選択したあと、Enter キーを押します。
15. Oracle Linux のインストールを完了し、目的の Linux カーネルでサーバーをリポートしたあと、71 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」に進みます。

## ▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする

この手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.6 または 7.0 の ISO DVD イメージ
- Oracle Linux 6.6 または 7.0 KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

KickStart は自動インストールツールです。これによりシステム管理者は、通常は一般的な Oracle Linux のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

始める前に Oracle Linux PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です:
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

Oracle Linux 6 での KickStart および PXE ネットワークインストールの詳細については、次の場所にある『Oracle Linux インストールガイド』を参照してください。[http://docs.oracle.com/cd/E37670\\_01/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E37670_01/index.html)

Oracle Linux 7.0 での KickStart および PXE ネットワークインストールの詳細については、次の場所にある『Oracle Linux 7.0 インストールガイド』を参照してください。[http://docs.oracle.com/cd/E52668\\_01/E54695/html/index.html](http://docs.oracle.com/cd/E52668_01/E54695/html/index.html)

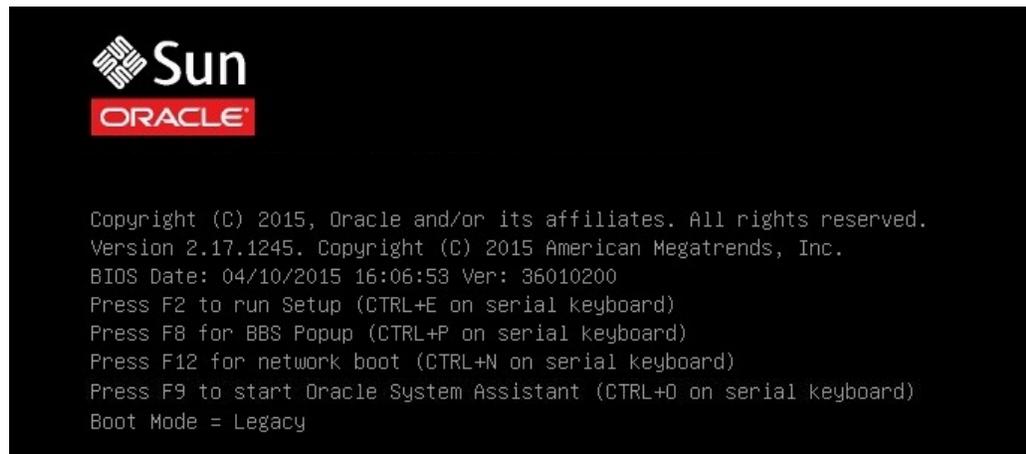
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Linux のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。**
2. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**

たとえば、次のいずれかを実行します。

  - **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
  - **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
  - **Oracle ILOM CLI で** 「`reset /system`」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

**注記** - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。



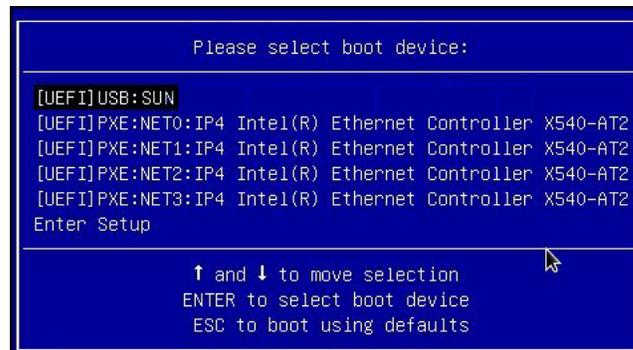
**3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを選択します。**

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



---

**注記** - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

---

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択して、Enter キーを押します。  
ネットワークブートローダーがロードされ、実行を開始します。
5. ここから先は、インストール手順はサイトの KickStart ファイルでの指定に従い、サイト固有になります。

## Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク

Oracle Linux 6.6 または 7.0 をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。これにより、サーバーで最新版のオペレーティングシステムが実行されることが保証されます。次の場所にアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/yum-repo-setup-1659167.html>

使用しているサーバーを最新アップデートで更新したあとは、必ずサーバーをリブートしてから、オペレーティングシステムを使用してください。Oracle Linux オペレーティングシステムについての最新の改善点をサーバーに確実に適用することだけでなく、サーバーを最新アップデートに更新することによって、オプションの NVMe ストレージドライブがインストールされている場合にこれを適切に操作するために必要な最新バージョンの Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) for Linux が、サーバーで確実に実行されるようになります。

## Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動インストール

このセクションでは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 および 7.0 for x86 (64 ビット) と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする手順について説明します。

ここでは、次のトピックを取り上げます。

- [72 ページの「RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスマップ」](#)
- [72 ページの「始める前に」](#)
- [73 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.0 OS を手動でインストールする」](#)
- [76 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)
- [80 ページの「RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」](#)

## RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールするための概略手順の一覧と説明です。

| 手順 | 説明                                                                 | リンク                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. | サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">「Installing the Server Into a Rack」</a> in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』</li> <li>■ <a href="#">「Cabling the Server」</a> in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』</li> <li>■ <a href="#">「Connecting to Oracle ILOM」</a> in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』</li> </ul> |
| 2. | サーバーでサポートされる Linux のバージョンを確認します。                                   | <a href="#">12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 3. | RHEL インストールメディアを入手します。                                             | 参照先: <a href="http://www.redhat.com/en/services/support">http://www.redhat.com/en/services/support</a>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 4. | プロダクトノートを確認します。                                                    | <a href="http://www.oracle.com/goto/X5-4/docs-videos">http://www.oracle.com/goto/X5-4/docs-videos</a> にある 『Oracle Server X5-4 プロダクトノート』                                                                                                                                                                                                         |
| 5. | インストールの実行に使用するコンソール、RHEL メディア、およびインストール先を設定します。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">13 ページの「コンソール表示オプションの選択」</a></li> <li>■ <a href="#">15 ページの「ブートメディアオプションの選択」</a></li> <li>■ <a href="#">20 ページの「インストール先オプションの選択」</a></li> </ul>                                                                                                                                            |
| 6. | OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。                                      | <a href="#">27 ページの「ブート環境の準備」</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 7. | RHEL OS をインストールします。                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">73 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.0 OS を手動でインストールする」</a></li> <li>■ <a href="#">76 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする」</a></li> </ul>                                                                                                                        |
| 8. | インストール後のタスクを実行します。                                                 | <a href="#">80 ページの「RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 9. | (オプション) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールします。 | <a href="#">80 ページの「(オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする」</a>                                                                                                                                                                                                                          |

### 始める前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- ブートドライブ (OS のインストール先ストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前にそれを実行する必要があります。サーバー上で RAID を構成する手順については、[「Configuring Server Drives for OS Installation」](#) in 『Oracle Server X5-4 Installation Guide』を参照してください。

- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。ブートモードを設定する方法の手順については、[30 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェア設定が適切に指定されていることを確認します。UEFI ファームウェア設定を確認し、必要に応じて設定する方法の手順については、[27 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、コンソール表示オプションが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、インストール先オプションが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[20 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

## ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.0 OS を手動でインストールする

この手順では、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.0 オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- RHEL 6.6 または 7.0 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- RHEL 6.6 または 7.0 の ISO DVD イメージ

PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、手順について [76 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする」](#)を参照してください。

RHEL OS のインストール方法の詳細は、<http://www.redhat.com/en/services/support> にある RHEL ドキュメントコレクションを参照してください。

### 1. インストールメディアをブートできることを確認します。

- **配布 DVD の場合**は、ローカルまたはリモートの USB DVD-ROM ドライブに Red Hat 配布メディアのブートディスク (単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合**は、Red Hat の ISO イメージが利用できること、および ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

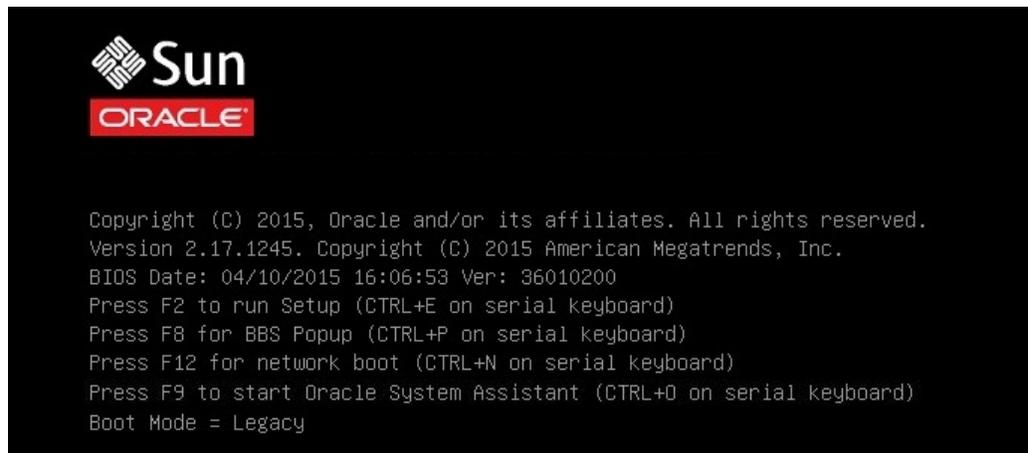
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

**2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** 「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



---

**注記** - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

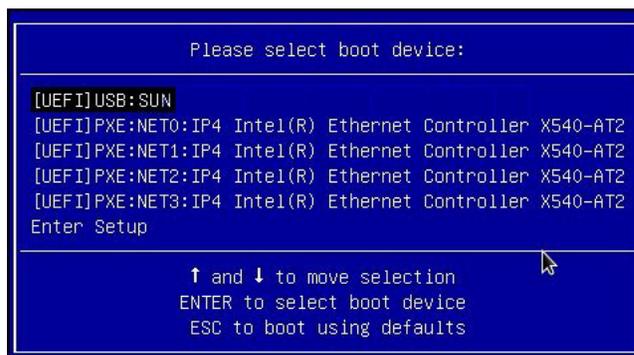
**3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。**

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスを内蔵、外付け、または仮想 DVD デバイスから選択し、Enter キーを押します。  
数秒後、RHEL インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。
5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、「Next」をクリックして標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

6. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。

詳細なインストール手順については、次の場所にある Red Hat Enterprise Linux のインストールガイドを参照してください。

<http://www.redhat.com/en/services/support>

---

**注記** - Oracle Linux 6.6 または 7.0 OS、または Oracle VM 3.3 ソフトウェアがディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除したり、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートしたりすることもできます。

---

7. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、[80 ページの「RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク」](#)に示すインストール後のタスクを実行します。

## ▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.0 をインストールする

この手順では、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.0 を PXE ネットワーク環境からブートする方法について説明します。RHEL 6.6 または 7.0 の KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ) からインストールメディアをブートすることを前提にしています。

KickStart は、Red Hat の自動インストールツールです。これによりシステム管理者は、通常は一般的な Red Hat Linux のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

**始める前に** RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です:
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

次の場所にある Red Hat Enterprise Linux 管理ガイドの PXE ネットワークインストール手順に従ってください。

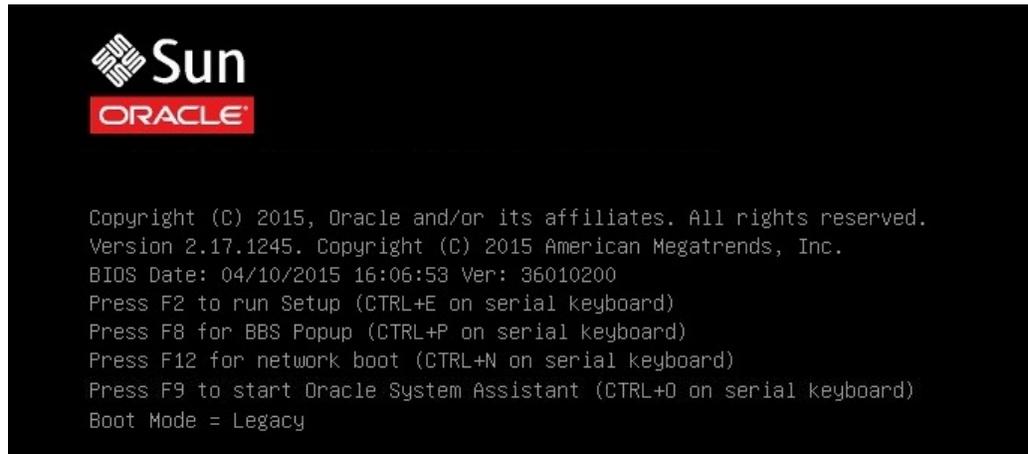
<http://www.redhat.com/en/services/support>

1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。**
2. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**

たとえば、次のいずれかを実行します。

  - **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
  - **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」 を選択して、「Save」 をクリックします。
  - **Oracle ILOM CLI で** 「`reset /System`」 と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



---

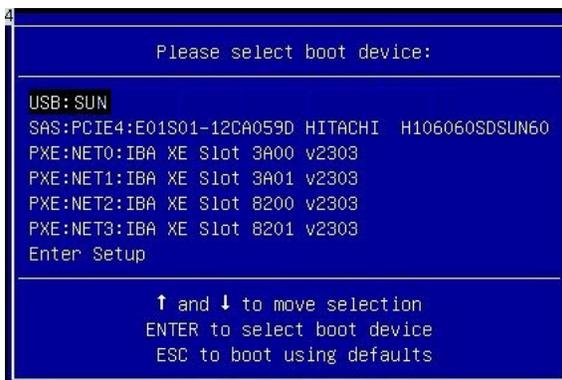
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

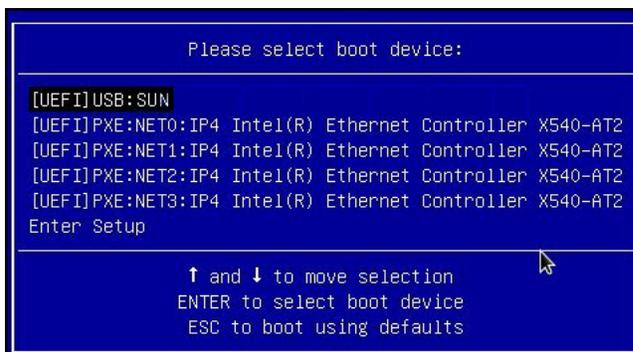
**3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。**

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように構成されている PXE インストールブートデバイス (物理ネットワークポート) を選択して、Enter キーを押します。  
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
5. ここから先は、インストール手順はサイトの KickStart ファイルでの指定に従い、サイト固有になります。

## RHEL 6.6 または 7.0 OS のインストール後のタスク

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.0 OS のインストールの完了後、次のインストール後のタスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを実行するようにしてください。

- 80 ページの「RHEL を登録し自動更新を有効にする」
- 80 ページの「OS 更新をダウンロードしてインストールする」
- 80 ページの「(オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする」

### RHEL を登録し自動更新を有効にする

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) をインストールしたあと、RHEL サブスクリプションを有効にしてソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、次の場所にある Red Hat のサポートを参照してください。

<http://www.redhat.com/en/services/support>

### OS 更新をダウンロードしてインストールする

インストール後、必要な場合は、RHEL OS の最新のエラッタおよびバグ修正をダウンロードしてインストールしてください。詳細は、次の場所にある Red Hat のドキュメントを参照してください。 <http://www.redhat.com/en/services/support>

### (オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする

Red Hat Enterprise Linux 6.6 または 7.0 をインストールしたあと、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux をインストールして使用することもできます。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux のインストール手順については、次を参照してください。

- <https://oss.oracle.com/ol6/docs/RELEASE-NOTES-UEK3-en.html>
- <http://docs.oracle.com/en/operating-systems/?tab=2>

# 索引

---

## あ

- 一時ブートデバイス
  - Oracle Linux OS, 43, 62, 69
  - RHEL OS, 74, 78
- インストール
  - Oracle System Assistant の使用
    - Linux OS, 23
  - メディアの使用
    - Linux OS, 24
  - インストールオプション
    - Linux OS, 22
  - インストール後のタスク
    - Oracle Linux OS, 71
    - Oracle Unbreakable Enterprise Kernel のインストール
      - Oracle Linux OS, 71
      - RHEL OS, 80
    - RHEL OS, 80
  - オペレーティングシステムの更新
    - Oracle Linux OS, 71
    - RHEL OS, 80
  - 更新をダウンロードしてインストールする
    - RHEL OS, 80
  - 製品の登録
    - Oracle Linux OS, 71
    - RHEL OS, 80
- インストール先オプション
  - Linux OS, 20
- 選択
  - Linux OS, 20
- ドライブの制限
  - Linux OS, 21
- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス

- Linux OS, 22
- ローカルストレージドライブ
  - Linux OS, 22
- インストールのタスクマップ
  - Oracle Linux OS 6.6、7.0, 40
  - RHEL OS, 72
- インストール方法
  - ブートメディアオプション, 15
- インストールメディア, 36
- オペレーティングシステムのインストール
  - 概要, 11
  - サポートされているオペレーティングシステム, 12
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 11
- オペレーティングシステムの更新
  - Oracle Linux OS, 71
  - RHEL OS, 80

## か

- 構成
  - RAID
    - Linux OS, 33
- コンソール表示
  - オプション, 13

## さ

- サーバー
  - 電源リセット, 42
- サポートされているオペレーティングシステム, 12
  - Linux OS, 12

**は**

- ブートディスクイメージ
  - Oracle Linux OS 6.6, 42
  - Oracle Linux OS 7.0, 61
  - RHEL OS, 73
- ブートメディア, 16
- ブートメディアのインストール, 15

**ま**

- メディアを使用したインストール
  - Oracle Linux OS, 40
  - RHEL OS, 71

**ら**

- リモートコンソール
  - 設定, 14
- リモートブートメディア
  - 設定, 17
  - 要件, 16
- ローカルコンソール
  - 設定, 14
- ローカルブートメディア
  - 設定, 17
  - 要件, 16
- ローカルまたはリモートメディアを使用したインストール
  - Oracle Linux OS 6.6, 42
  - Oracle Linux OS 7.0, 61

**B**

- BIOS
  - 設定の編集および表示の手順, 28

**I**

- ISO イメージ
  - Oracle Linux OS, 42, 62
  - RHEL OS, 73

**K**

- KickStart
  - Oracle Linux OS, 67
  - RHEL OS, 76
- KickStartを使用したインストール
  - RHEL OS, 76

**O**

- Oracle Linux 6.6 および 7.0 OS, 67
- Oracle Linux OS 7.0
  - ISO イメージ, 62
  - ローカルメディアまたはリモートメディアによるインストール, 61
- Oracle Linux OS
  - ISO イメージ, 42
  - サーバーの電源リセット, 42, 62, 68
- Oracle Linux OS のインストール
  - タスクマップ, 40
- Oracle System Assistant
  - OS インストールタスク, 25
  - 概要, 24
  - 取得, 25, 25
- Oracle System Assistant を使用したインストール
  - Linux OS, 35

**P**

- PXE ネットワークブート
  - Oracle Linux OS 6.6、7.0, 67
  - RHEL OS, 76

**R**

- RAID
  - 構成, 33
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) OS
  - ISO イメージ, 73
  - サーバーの電源オン, 74
  - タスクマップ, 72
  - ブートディスクイメージ, 73

**U**

UEFI

ブートモードの設定, 30

